

施業前後の森林解析結果を用いて算出した値から図 3.8、及び図 3.9 のグラフを作成し、検証を行った。

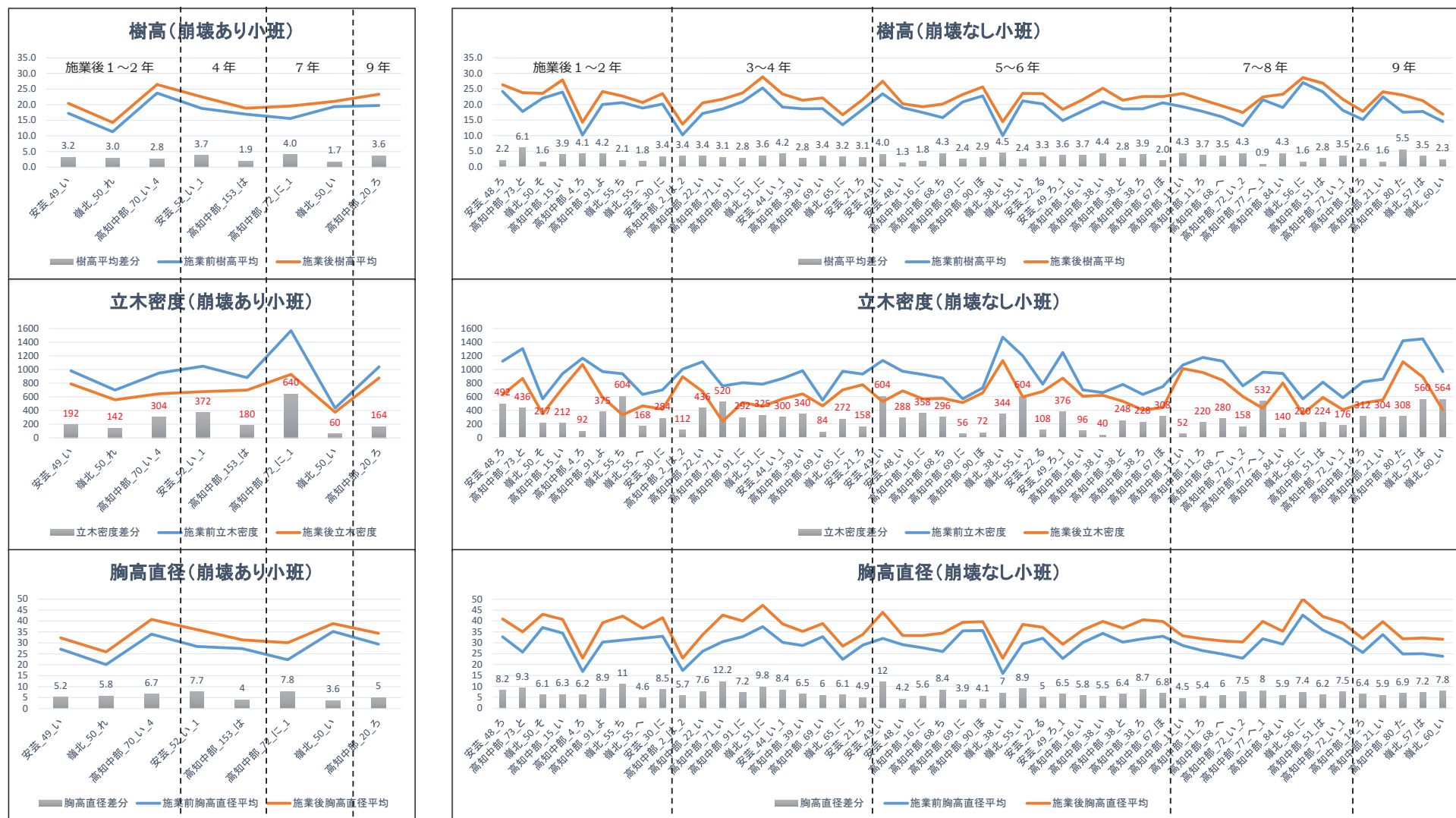


図 3.8 56 小班の施業前後の差分比較 (樹高・立木密度・胸高直径)

差分値を示す棒グラフの数値は、黒字はプラスの値を示し、赤字はマイナスの値を示す。

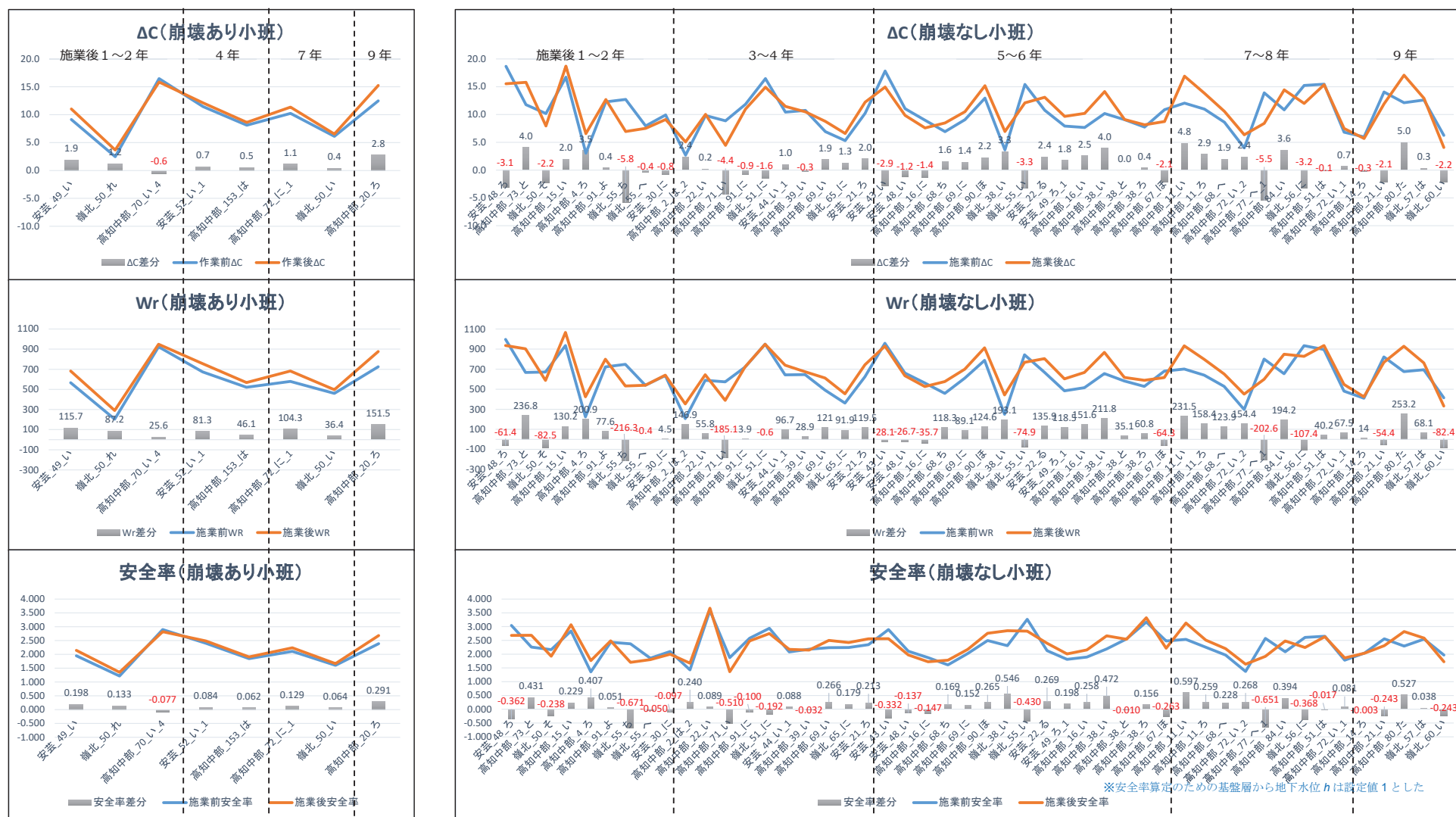


図 3.9 56 小班的施業前後の差分比較 (ΔC ・ Wr ・安全率)

図 3.8、及び図 3.9 では崩壊地の有無、施業後経過年数で区分し、比較検証を行ったが、両者ともに傾向は見られなかった。

次に施業前後の立木密度の差分と ΔC 、及び Wr の差分との関係に着目し、検証を行った。

グラフ上に引いたピンク色の破線は ΔC の差分値が -2 以下となった小班である。これらの 11 小班の立木密度の差分値は 452 本/ha となり、全 56 小班の平均の 283 本/ha と比較し、大きな差分であることがわかった。

また、グラフ上に引いた緑色の破線は ΔC が +2 以上となった小班である。これら 15 小班の立木密度の差分値は 167 本/ha となり、全 56 小班の平均の 283 本/ha と比較し、小さな差分であることがわかった。これらの結果を踏まえ、より詳細な検証を行うため、散布図を作成し、考察を行った。

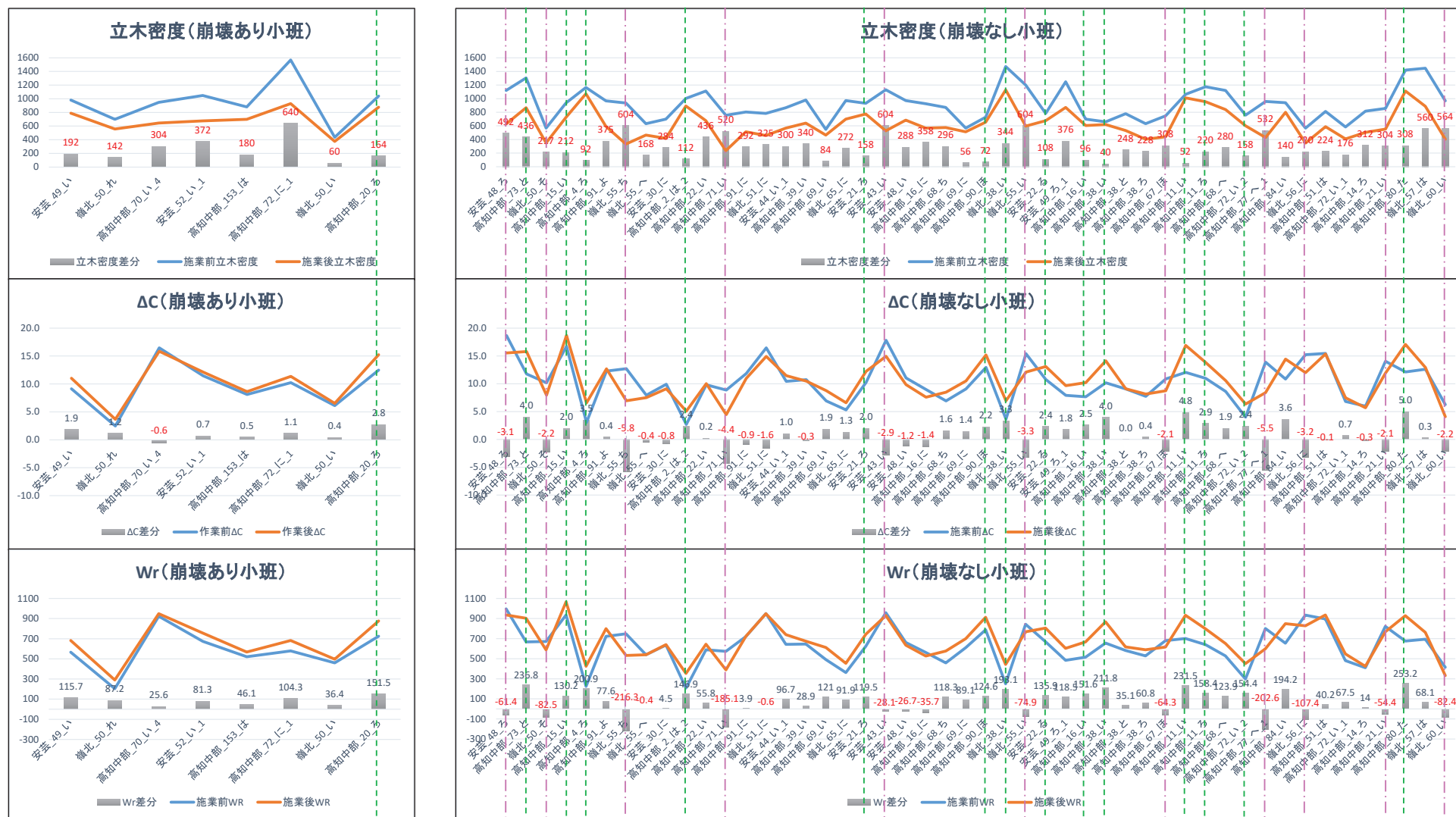


図 3.10 56 小班の施前後の差分比較（立木密度と ΔC ・ Wr ）